

水稻の作柄に関する委員会（平成 28 年度第 2 回）議事概要

- 1 開催日時：平成 28 年 9 月 2 日（金） 15:30～16:50
- 2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第 1 会議室
- 3 出席者：【委員】
雨宮宏司座長、黒田栄喜委員、竹川元章委員、中園江委員、
平澤正委員、山岸順子委員、吉永悟志委員

【事務局】
大臣官房統計部長、生産流通消費統計課長 他
- 4 議事
平成 28 年産水稻の 8 月 15 日現在における作柄概況及び次回調査の実施に当たっ
ての留意事項について
- 5 議事概要（○：委員からの発言）
事務局から平成 28 年産水稻の 8 月 15 日現在における作柄概況調査の結果、本年
の気象の推移等について説明後、各委員から意見・提言を受けた。
 - 早場地帯においては、7 月下旬の梅雨明け以降、気温の高い状態で経過して
おり、今後 1 か月間も全国的に高い気温が続くと見込まれるものの、北日本を
中心に曇りや雨天が多いと予測されていることから、8 月中旬以降の台風によ
る倒伏等の影響と併せて、収量や品質への影響が懸念される。
 - 6 月から 7 月中旬にかけて、断続的ではあるものの寡照が続いた西日本の遅
場地帯においては、穂数及び一穂当たりもみ数への影響を見極める必要がある。
 - 西日本では、8 月は月末に記録的な低温の日があったが、それまでは 1946
年以降で、2010 年、2013 年に次ぐ顕著な高温で経過しており、品質低下が懸念
される。
 - 関東地方では、8 月中旬以降天候が不順で日照時間も平年を下回っているこ
とから、登熟への影響が懸念される。
 - 8 月中旬以降に台風等による集中豪雨や強風に遭遇した地域では、倒伏等の
直接的な被害に加えて、その後に病虫害が発生する可能性がある。特に早場地
帯の中生品種では、倒伏しやすい出穂後 2 週間から 3 週間の間に台風の影響を
受けていることから、倒伏に伴う登熟への影響が懸念される。
 - いもち病、斑点米カメムシ等の発生が多いと予想されている地域においては、
その発生に留意する必要がある。

以上の意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。
(http://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/attach/pdf/index-3.pdf)